

平成24年度卒業論文

雅楽の箏築で吹く各調子における周波数

所属ゼミ 村澤ゼミ
学籍番号 1090401093
氏名 中喜重

大阪府立大学経済学部

要約

現在の雅楽における標準音は平調(洋楽の E)となっている。その音高は A=430Hz で平均律に設定されたチューナーでぴったりとった平調の音である。周波数でいうと 644.27Hz である。この音から残り 11 個の音を順八逆六・順六逆八法によって決定したものが現在の雅楽における理論上の正確な音高になる。しかし、実際に箏箏で吹く音は雅楽の各調子においてそれぞれ少しずつ音高が理論値と異なってくるのではないだろうか。本稿では実際の雅楽の演奏している音の音高調べてデータを取り、理論値の周波数との差を検証する。

目次

第 1 章	はじめに	3
第 2 章	先行研究	4

第1章 はじめに

第2章 先行研究

統計手法を用いた雅楽の音程に関する研究については明土(2011)がある。ここでは残差の平均と95%信頼区間より日本のかつての標準音は壱越であり、その周波数が291.333Hzであったことを明らかにした。また「日本音楽十二律」の12個の音の求め方であるが、標準音である壱越から